

泉岳寺（都営浅草線）

田町駅と品川駅の間のできるという山手線の駅は、話題のビッグプロジェクト。田町一品川間にあった田町車両センターを移転し、その跡地に十三ヘクタールのまったく新しい街が生まれ、新駅は二〇二〇年の東京オリンピックに合わせて開業予定だという。その新駅のできるあたりに今現在あるのが都営地下鉄浅草線の泉岳寺駅だ。

地下鉄泉岳寺駅で地上に出ると目の前は第一京浜道路。お正月の箱根駅伝のコースで、毎度テレビにも映る場所でもある。その第一京浜沿いには京浜急行の本社がある。横須賀や浦賀、三崎まで行く京急線の始発駅は、品川駅だと思いがちだが、この泉岳寺駅なのだ。

JR線路沿いを田町方面に歩いていくと、古びたガードの入口がある。ここは高輪橋架道橋という、都内でも桁下が低いことで有名などころ。制限高一・五メートルという線路下の道が二百メートルほど延々と続いて、タクシーの抜け道になっているのか、次々に車が通り抜けていく。道路は一車線しかなく、泉岳寺側から海側に向けての一方通行だ。この、都市の秘境のようなガード下通路も再開発とともに消えるはずだから、今のうちに探検気分を訪ねておくのがいいかも。

忠臣蔵で有名な泉岳寺は、泉岳寺駅前から坂道を上っていくとすぐ。お寺の山門の前は小高い丘になっていて、線路のほうを見るとこれから再開発される山手線新駅予定地帯が見渡せる。その向こうを高速で飛ばしていくのは東海道新幹線。新駅誕生に合わせて生まれる街は羽田空港も、新幹線やリニアの駅のできる品川にも近い国際交流拠点になるらしい。

泉岳寺には、江戸城内で吉良上野介を斬りつけて即日切腹を命じられた赤穂藩主浅野内匠頭の墓と、その藩主の仇を討った四十七士の墓所がある。今も忠臣蔵好きの人は多いのか、老若男女、意外にたくさんの人がお参りに来ている。四十七士というと改めて考えてみるとたいへんな人数だが、その墓は整然と並んでいて、人々が香華を手向けていた。この泉岳寺は、禅宗である曹洞宗のお寺であることも意外。

山門を入ると参道には、地方の観光地にあるようなちょっと懐かしい感じのみやげもの店が並んでいて、陣太鼓や刀、湯のみ、赤穂の塩饅頭など、ご当地色の強いおみやげ各種が並んでいる。

泉岳寺の背後はさらに台地になっていて、お寺の門前の道を歩いていくと上り坂になる。これが伊皿子坂。道沿いにあるのは高級マンション、NHK交響楽団の練習所、お寺、幸福の科学の施設などなど。坂はカーブしながら上り続け、頂上にあたる交差点で魚藍坂につながっている。このあたりの坂道が多い凸凹地形は、坂上と坂下で街の表情が異なり、変化に富んでいておもしろい。

高台上にあるのは、幕末にイギリス公使館になっていた東禅寺。フランソワーズ・サガンの翻訳などで知られる朝吹登水子が育ったヴォーリズ設計の洋館・旧朝吹常吉邸は、今は東芝山口記念会館となって残っている。

伊皿子坂上の尾根道は、旧高松宮邸や高輪二本榎商店街にも続いていて、ここも山の手と下町の要素が入り交じる散歩して楽しい道だ。旧高松宮邸の並びには、豆大福

で有名な松嶋屋があり、高輪二丁目には昭和八年にできた火の見櫓のあるレトロな外観の消防署もある。

この商店街あたりからも最寄り駅になる山手線の新駅だが、その駅名が取り沙汰されている。泉岳寺駅前にあるから同じく泉岳寺というのもあり得るのかとも思ったが、地元などでは高輪という駅名を要望する声が上がっているらしい。

その汐留にあるのは都営地下鉄大江戸線の汐留駅。新交通ゆりかもめの汐留駅や、地下鉄やJRの新橋駅からも近く、銀座も八丁目あたりからは徒歩圏内という感じだ。

貨物駅の跡地である都心の広大な敷地は、国鉄の清算事業団によって売却され「シオサイト」という再開発の街ができた。ただ、ここは六本木や丸の内再開発とは違って、一社による総合開発ではなく、さまざまな不動産会社や企業によるビルが林立したことにより、街並みや地域の総合力としてはイマイチな結果となっている。

その汐留にあるのは、日本テレビ放送網、電通、共同通信社、ソフトバンク、資生堂などという今時人気のありそうな企業の本社。この街を歩いていると、超高層ビルの狭間をゆりかもめ、新幹線などの各種交通機関が行き来し、それだけで手塚治虫のマンガに描かれた未来都市にいるような気分になる。

電通の建物はフランス人の世界的建築家ジャン・ヌーヴュルの作品。建物の外壁はガラスだが、ガラスに白からグレーのセラミックを吹き付けて、建物全体に濃淡のグラデーションが施されている。東京に数あるガラスの超高層建築のなかでも、かなり手の込んだものだ。

汐留には超高層ビルがたくさんあるのだが、最上階が展望レストランになっているのは、この電通ビルくらい。浜離宮や築地、東京湾や銀座の夜景が見えて、きれいだ。

そして、汐留でもっともにぎわっているのは、日本テレビの周りだろう。ビルの下の方ではその時々の日テレ番組関連のイベントや生放送が行われていたり、宮崎駿がデザインしたジブリアニメに出てきそうな大時計があったりして、大人も子どもも群がっている。

シオサイト内で環状二号線を越えてJR線路の向こう側に行くと出現するのがイタリア街。ここは、もともとの地元の地権者の人たちがイタリア風の街づくりをしている地域で、場外馬券売場であるウインズ汐留も、イタリアのパラッツォのような外観。線路の向こうには、港区立イタリア公園という、イタリア風の列柱、裸婦の彫刻像、成型のヨーロッパ庭園というまさにイタリア的な庭園もある。

カレッタ汐留（電通本社ビル）